

関係代名詞

関係代名詞は、2つの文章で表す情報内容を1つの文章に「つなげる」役割をします。下記の日本語をみてみましょう。

A.私には息子が一人いる。

B.私の息子は野球をする。

上記を英語にすると

A.I have a son.

B.My son plays baseball.

上記、A,B の文章を一つにつなげて「私には野球をする息子がいる」というために、who を使うと下記のようになります。

例★*I have a son who plays baseball.*

「私には野球をする息子がいる」

解説: son の後に who という関係代名詞を入れて、son が行う動詞を直後に置くと、このような文章が成立します。関係代名詞により説明される名詞(この場合 son)が、人ではなく、物や動物だった場合は which を使いましょう。すると下記のようになります。

例★*I have a dog which is a Dachshund.*

「私にはダックスフンドの犬がいる」

※また、人の場合の who も、動物や物の場合の which いずれも、that に置き換え可能です。よって I have a dog that is Dachshund も可です。名詞を後ろから修飾することができるので、一度名詞を言った後にその説明をする際にとっても便利であり、よく英語では使われている表現です。これらは理屈よりも、沢山の関係詞を使った例文を参照したり、英作文の練習をすることで体得していきましょう。

この関係代名詞には種類がいくつか存在します(上記の関係代名詞は「主格」と呼ばれます)下記に他の種類の関係代名詞を用いた文章を同じ形式で記します。

●目的格

A.私には息子がいる。
B.私は息子を愛している。

↓

A.I have a son.
B.I love my son.

I have a son. I love my son.



I have a son (whom) I love.



上記 A,B を関係代名詞でつなげると下記のようになります。

例★*I have a son whom I love.*

「私には愛する息子がいる」

解説:love(動詞)の目的語が son(関係代名詞の前の名詞、先行詞)になっている。この際は関係代名詞 whom を使います。または目的格の際は関係代名詞を省略してもいい。よって、I have a son whom I love も可。

●所有格

A.私には息子がいる。
B.私の息子の趣味は野球をすることである。

↓

A.I have a son.
B.His hobby is to play basketball.

I have a son. His hobby is playing baseball.



I have a son whose hobby is playing baseball.

上記 A,B をつなげると下記のようになります。

例★*I have a son whose hobby is playing baseball.*

解説:his の部分をそのまま whose に言い換えてつなげることができます。

●関係副詞(関係代名詞の一種)

A.私の息子は私立の高校に通っている。
B.その私立の高校では、生徒はプログラミングを学ぶことができる。

↓

A.My son goes to a private high school
B.The students can learn programming in the private high school.

上記 A,B をつなげると日本語ではです。英語では下記のようになります。

例★*My son goes to a private high school where the students can learn programming.*

「私の息子は、生徒がプログラミングが学べる私立学校に通っている」

解説:高校がどんな場所かを説明するために必要な表現は「生徒がプログラミングを学ぶことができる」ですよね。これは独立できる文章(節)です。このように、関係

副詞の直前の名詞(～school)を説明するために、「文章」をとるときは、where を使います。これは in which に言い換え可能です。

※「場所」の説明の際は where ですが、関係副詞はこれ以外にも、時の説明には when,理由の説明には why,様子、状態の説明には how があります。how は先行詞をとりません。例文を沢山参照したり、作文練習することで、体得しましょう。

●複合関係代名詞

1「What+動詞」～で、名詞のかたまりとして機能します。

例★*What is sad is that there are still many people starving in the world.*

「悲しいことは、世界にはまだ飢えている人が沢山いる、ということだ」

解説:「what is sad」は名詞のかたまり「悲しいこと」になり、ここは文章の主語になっている。ちなみに、is は be 動詞ですが、what の後には当然下記のように一般動詞もとれます。

例★*What makes me sad is that there are still many people starving in the world.*

「わたしを悲しくさせるのは、世界にはまだ飢えている人が沢山いる、ということだ」

●ever がついた複合関係代名詞

関係代名詞に ever をつけて機能するもので、同じく動詞を後にとって名詞のかたまり、もしくは譲歩を表す副詞節(ある文章に情報を追加するもの)になります。いくつかあるので、下記で一つ一つ説明します。

1. Whoever(～するのは誰でも)※名詞をつくる場合

例★*Whoever leaves the office last should turn off the air conditioner and all the lights.*

「誰であれ最後に事務所を出る人は、エアコンと全てのライトをオフにするべきだ。」

2. Whoever(～するのは誰でも)※副詞節をつくる場合

例★*Whoever comes to the information desk, you should speak politely.*

「誰が案内デスクに来て、あなたは丁寧に話すべきだ。」

3. Whomever(～をする人は誰にでも)※目的格で示す。whoever でも可)

例★*You can choose whomever you like for a tennis partner.*

「あなたはあなたの誰でも好きな人をテニスのパートナーに選ぶことができます。」

4. Whatever(～するのは何でも)※名詞をつくる場合

例★*You can order whatever you like.*

「なんでも好きなものを注文できます」

解説: you like が whatever を修飾し、「なんでも好きなもの」という名詞をつくります。

5. Whatever (～するのは何でも) ※副詞節をつくる場合

例★ *Whatever he does, I always trust him.*

「彼が何をしようと、私はいつも彼を信用する。」

6. Whichever (～するのはどれでも、どちらでも) ※名詞をつくる場合

例★ *Whichever position you decide to take in the debate, be sure to have strong facts to support your arguments.*

「討論においてどちらの立ち位置をあなたがとるにせよ、あなたの論点を支えるための確かな事実をもってください。」

7. Whichever (～するのはどれでも、どちらでも) ※副詞節をつくる場合

例★ *Whichever idea you adopt, I will do my best to practice it.*

「あなたがどちらのアイデアを採用するのであれ、私はそれを実践するために全力を尽くします。」